

「ぼくにできるリサイクル」

春日部市立 四年 中村 凱（なかむら がい）

ぼくはリサイクルプラザJBを見学しました。ここはジャパンビレッジが2003年に作った工場です。この工場では、自動はん売機となりにおいてある回しゅうようきにすてられた、アルミかんとスチールかんをリサイクルしています。アルミかんとスチールかんを分けるのに、じしゃくをり用しています。スチールかんはじしゃくにつきます。アルミかんはつきません。これはとてもべんりな方法だと思いました。人がひとつひとつアルミかんとスチールかんに分けるのは、とても大へんなことだからです。

アルミはボーキサイトから作られます。ボーキサイトからアルミかんを作るのに必要なエネルギーを100とすると、リサイクルされたアルミをアルミかんにするのに必要なエネルギーは3だそうです。ぼくはこれを聞いてとてもおどろきました。もし世界中のアルミかんがリサイクルされるようになれば、たくさんエネルギーのおだづかいがなくなつてよいと思いました。

ピンはきちんと色で分けて、他の工場に売られます。一番高く売れるのはとう明のピンだそうです。ペットボトルはおしつぶして、600本ぐらいを一つのかたまりにしてみました。そのかたまりを二こあつめると、7000円ぐらいで売れるそうです。

ぼくの家ではペットボトルのビニールをはがしてかねん物としてすてます。ペットボトルのキャップは小学校やようち園に持っていきます。こうやってきちんと分けて集めてあるペットボトルは、もう少し高く売れるそうです。それは分べつするのにお金がかかるためです。

ゴミをリサイクルするときこまることは、本当は入っているはずのないゴミがたくさん入っていることでした。たとえば、電球、かん電池、かさなどが入っていました。ピン、かん、ペットボトルの回しゅうようきに、他のゴミも一しょにすててしまう人がいるからです。ごちゃごちゃにすてられたゴミは、

きかいで分けることはできません。工場ではたらいにいる人が、暑い中ひとつひとつ手で分けていました。とても大へんな仕事だと思いました。

ぼくたちは、ものをすてるときに、しげんを回しゅうする作業のことを考えなければいけないと思います。なぜなら、けっきょく人が、ひとつひとつ手作業でしげんを分けているからです。最初から分けてすてていれば、この作業は必要がなくなります。工場ではたらく人たちの仕事も、もう少し楽になると思います。そして、回しゅうされたしげんのかちが高くなるのです。

今までぼくは、リサイクルできる大切なしげんを、ただのゴミと考えていました。今回、この工場を見学して、ぼくにできるリサイクルがはっきりと分かりました。それはゴミ箱をゴミ箱と考えずに、回しゅうようきだと考えればいいということです。リサイクルプラザの人も、「自動はん売きの横にあるのはゴミ箱ではなくて、回しゅうようきです。」と言っていました。ぼくたちがこのように考えることで、きちんと分けられたしげんが回しゅうできます。

この見学をしてから、ビンとかんとペットボトルをすてるときに、それをリサイクルする工場のことを思いうかべるようになりました。